



### ヤングケアラー

以前 NHK で放送された「むこう岸」というドラマを観ました。ドラマのあらすじはこうです。

有名私立中学校から「落ちこぼれ」で、とある公立中学校に転校してきた少年和真と、その秘密を知ったことで「取引」として和真に、口の聞けない少年アベルに勉強を教えることを命じる同級生の少女樹希の二人が、ドラマの主人公である。父親からのプレッシャーに悩んでいた和真は、樹希やアベルと過ごすうちに、自分の居場所を見つけてゆく。一方、病気の母親と幼い妹を抱え生活保護を受けて暮らしている樹希は、将来に希望が持てず、看護師になりたいという夢もあきらめかけていた。見かねた和真は『生活保護手帳』の難解な内容を読み解き、樹希とともに、周囲の大人たちを巻き込みながら、現状を打開する糸口を見つけていく。

樹希はヤングケアラーです。ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っているこどものこと」と定義されます。ヤングケアラーは、本当なら享受できたはずの、勉強に励む時間、部活に打ち込む時間、将来に思いを巡らせる時間、友人との他愛ない時間など、「こどもとしての時間」と引き換えに、家事や家族の世話をしていることがあります。

令和2・3年度の実態調査によると、世話をしている家族がいると回答したのは、高校2年生全日制では、4.1%、定時制では8.5%でした。ヤングケアラーの問題は、家庭内のデリケートな問題として表面化しにくかったり、当人がヤングケアラーであることに気づいていなかったりすることも少なくないように思えます。

こどもがこどもとしての大切な時間を削られたり、現状苦しい生活を強いられているということだけでなく、樹希のように、将来の希望さえ見失ってしまうというところに、この問題の深刻さがあります。和真の塾の先生で元ケースワーカーだった湯川先生が樹希に支援を受けるよう勧める場面が出てきます。支援を受けることは、「あなたのためだけでなく、社会のためになるんだよ」「生活保護を受け続けるのと、しっかり勉強して社会に貢献できるのと、どっちがプラスになると思う」と。

生活保護を受ける人たちに対する差別や偏見は今も根強いものがあり、一方、受ける側の人たちにも負い目のあることが少なくありません。ドラマの中に、生活保護を受ける人たちをさげすむ場面が出てきます。しかし、そのようなことは間違いです。貧困や生活が困難になるリスクは誰もが抱えています。誰もが幸せになれる社会、将来の夢を諦めてしまうこどもたちがいなくなる社会を、私たちは目指していかなければなりません。

参考にしたホームページ：「むこう岸」番組 HP ・こども家庭庁 HP ・政府広報オンライン

スクールライフアドバイザー来校日（相談時間 10:00～16:45）

9/6（金） 9/13（金） 9/27（金）



☎ 電話による相談もできます。教育相談室直通の電話（青年期の探究の最後のページに記載しています）を利用してください。